# 1　場の構造化

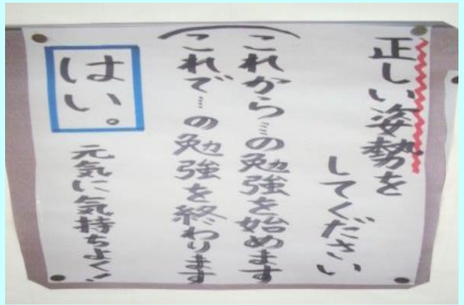
片付け方の写真

### 道具の整理整頓・管理

片付けの仕方を写真で示すことで、道具の数や収納の仕方を、一目で確認することができます。〇班ごとに一つのかごに収納することで、片付けの時間が短縮され、作業時間が確保できます。

### 前面に掲示は必要な情報のみ

児童の注意をそらしたり、大切な情報をわかりにくくしたりする余分な刺激（情報）を取り除き、必要な情報に集中できるわかりやすい教室環境をつくる必要があります。




### 授業中の約束や構えの掲示

授業の始まりと終わりは、姿勢を意識させ区切りをつけましょう。

発表の仕方、話の聞き方は、学習するときの共通の約束として、常に振り返れるように掲示しておきましょう。

# 3　ルールの確立

### みんなで共有する手立ての提示

集団生活に於いて適切な行動を示し、具体的にどのように振る舞えばよいのかを示しましょう。

その場その時の状況に応じた適切な対応が苦手な子どもも、安心して学習や生活をすることができるように、見本を示しましょう。

靴のかかとを白線にそろえる。

**一人一人の良さに目を向けましょう**
**“子どもの困りや行動の背景を探りましょう”**
**“必要なこと、できることから、まず始めましょう”**

# 2　刺激への配慮

スピーカーに布をまいて音が響かないようにする。

### 視覚刺激の軽減

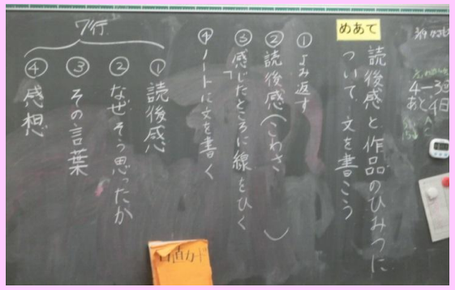
集中しやすく、落ち着いて学習に取り組みやすい環境にするには、教室の刺激の量を減らしましょう。

棚は、落ち着いた色のカーテンで目かくししましょう。

### 集中して学習できる座席の配置

どんな環境で集中できるのか、落ち着いて学習できるのか把握しましょう。
前列、先生の近く、窓際、最後方等、本人とも相談すると良いでしょう。

# 4　生活の見通し



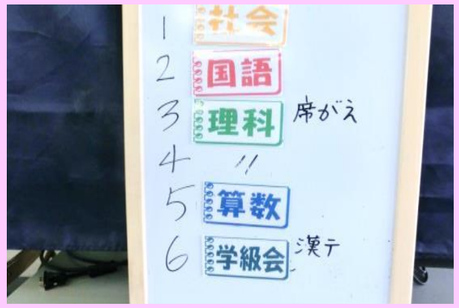

### 手順･行程・内容の明示

授業のめあてや流れを明示しパターン化することで、見通しを持って授業に臨むことができ、主体的な学びが期待できます。

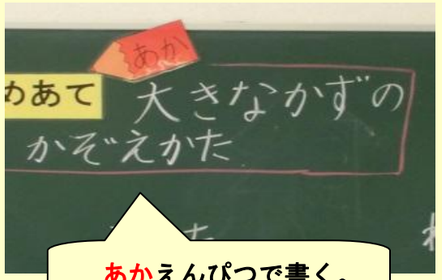
学習活動の始まりと終わりを明確に示し、いつまでに何をするのか、どこまでやれば終わりなのかなど、具体的に示すことで集中が持続しやすくなります。

### １日の予定の掲示

一日のスケジュール（テストや臨時の活動）、一週間の予定などを掲示しましょう。見通しを持つことができ、児童も教師も確認でき、変更にも対応しやすくなります。



# ５　指示の出し方




あかえんぴつで書く。

### わかりやすく・明確な指示

①「今から〇〇について話をします。」（予告）
②「3 つ話をします。１つ…２つ…3 つ…」
③「質問は最後に聞きます。
　　最後まで聞きましょう。」
　声のトーンをかえ、「ゆっくりと、おだやかに、語り掛けるように」話しましょう。

### 視覚情報を活用した指示

　教師自身が最も重要な学習環境です。具体的で簡潔かつ丁寧な言葉を使って言語環境を整理することは、児童生徒の「わかりやすさ」の基本となります。
　「しっかり」「ちゃんと」などの曖昧な言い回しは避け、絵図や具体物を添えましょう。

# ６　集中・注目のさせ方

気持ちのサークル「角丸君」

### 教師の立ち位置、合図の統一

　注意を促す指示や合図を決めましょう。（教師の立ち位置、ハンドサイン）
　ルール化しましょう。（手の位置、姿勢、話し手に体を向ける）
　手本を示し、児童が自主的に注目した時を逃さずにほめましょう。

### 興味を引き付ける教材の工夫

　見えないものを「見える化」して提示する。視覚、聴覚、触覚等、多感覚教材を活用しましょう。

　体育や集会、屋外での活動時は、つま先、ひざを話し手に向けさせる。
（ルールの徹底）

協力校：小野市立河合小学校　「授業のユニバーサルデザイン実践ハンドブック」引用　H28 年 3 月作成

# みんながわかって できる喜びが実感できる 授業をめざして

## ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝの授業づくり６のﾎﾟｲﾝﾄ

　『特別支援教育は、障がいの有無にかかわらず、支援の必要なすべての子どもたちが在籍する全ての学校において実施されるものである。…』
「特別支援教育の推進について（通知）特別支援教育の理念より」(文科省 2007)
　子どもたち一人一人の実態やニーズを把握し、教育的ニーズに応じた指導や支援を行うことが、今現在、教育にかかわるすべての教師に求められています。
　特別支援教育の充実に向けて、教師自身の意識改革や専門性の向上が必要になっています。教師の専門性の一つとして、学級経営力と授業力をもつこと、つまり、一人一人の個性を認め、安心して過ごせる学級をつくることと、学び方の違いを理解して子どもたちが「わかる、できる、楽しい」と感じる授業を工夫していくことが必要です。

**小野市教育委員会**